

2010（平成22）年度事業報告書

2011年5月

学校法人 京都精華大学

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本学の建学の理念は、初代学長の岡本清一が本学の前身である京都精華短期大学の設立時に提示した以下の「教育の基本方針に関する覚書」に立脚する。

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格的感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人とに対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかられる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代に向かって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かれなければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

(2) 学校法人の沿革

年 度	事 項
1968 (昭和 43) 年	4 月 京都精華短期大学開学 (設置者：学校法人京都精華学園)。英語英文科 (入学定員 100 名)、美術科 (入学定員 50 名) を開設。
1970 (昭和 45) 年	4 月 美術科・英語英文科に専攻科開学。美術科・英語英文科入学定員を 150 名に増員。
1979 (昭和 54) 年	4 月 京都精華大学開学。美術学部造形学科 (専門分野は洋画、日本画、立体造形。入学定員 60 名)、美術学部デザイン学科 (専門分野はデザイン、染織、マンガ。入学定員 60 名) を設置。 短期大学を短期大学部に名称変更。
1982 (昭和 57) 年	4 月 京都精華大学短期大学部美術科および美術専攻科を廃止。
1989 (平成元) 年	4 月 美術学部造形学科に版画分野・陶芸分野を増設。
1987 (昭和 62) 年	4 月 人文学部人文学科開設 (短期大学英語英文科を改組)。
1991 (平成 3) 年	4 月 京都精華大学大学院開設 (美術研究科造形専攻・デザイン専攻)。 6 月 京都精華大学短期大学部廃止。

年 度	事 項
1993（平成 5）年	4 月 大学院人文学研究科開設。 12 月 学校法人木野学園の設置。
2000（平成 12）年	3 月 ISO14001 認証取得。 4 月 人文学部環境社会学科、芸術学部マンガ学科（ストーリーマンガコース、カートゥーンマンガコース）開設。 美術学部を芸術学部、大学院美術研究科を芸術研究科に名称を変更。
2001（平成 13）年	7 月 京都精華大学表現研究機構開設。
2003（平成 15）年	4 月 学校法人名を「学校法人木野学園」から「学校法人京都精華大学」に変更。 人文学部人文学科を改組再編し、社会メディア学科・文化表現学科を設置。 大学院芸術研究科に芸術専攻博士後期課程を設置。
2006（平成 18）年	4 月 デザイン学部・マンガ学部を新設。デザイン学部にはビジュアルデザイン学科・プロダクトデザイン学科・建築学科を、マンガ学部にはマンガ学科・マンガプロデュース学科・アニメーション学科を開設。 芸術学部には造形学科に加え、素材表現学科・メディア造形学科を開設。 11 月 烏丸御池に京都国際マンガミュージアムを開設（京都市との共同事業）。
2008（平成 20）年	4 月 学校法人インターナショナル学園（専修学校京都インターアクト美術学校設置者）と合併。
2009（平成 21）年	4 月 人文学部環境社会学科・社会メディア学科・文化表現学科を改組再編し、総合人文学科を開設。 3 月 京都インターアクト美術学校を廃止。
2010（平成 22）年	4 月 大学院にデザイン研究科・マンガ研究科を新設。 8 月 四条烏丸に産学連携サテライトスペース kara-S を開設。

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校：京都精華大学

2011（平成23）年3月31日現在

	学部・研究科	学 科	開設年	摘要
学 部	芸 術 学 部	造 形 学 科	1979（昭和54）年	
		素 材 表 現 学 科	2006（平成18）年	
		メテ`ィア造形学科	2006（平成18）年	
		デ ザ イ ン 学 科	2000（平成12）年	2006（平成18）年4月募集停止
	デ`ザイン学部	ビ`ジュアルデ`ザイン学科	2006（平成18）年	
		フ`ロダクトデ`ザイン学科	2006（平成18）年	
		建 築 学 科	2006（平成18）年	
	マンガ学部	マ ン ガ 学 科	2006（平成18）年	
		マンガフ`ロデュース学科	2006（平成18）年	
		ア ニ メ ー シ ョ ン 学 科	2006（平成18）年	
	人 文 学 部	社 会 メ テ ` ィ ア 学 科	2003（平成15）年	2009（平成21）年4月募集停止
		文 化 表 現 学 科	2003（平成15）年	2009（平成21）年4月募集停止
		環 境 社 会 学 科	2000（平成12）年	2009（平成21）年4月募集停止
総 合 人 文 学 科		2009（平成21）年		
大 学 院	芸 術 研 究 科	博 士 前 期 課 程	1991（平成3）年	
		博 士 後 期 課 程	2003（平成15）年	
	人文学研究科	修 士 課 程	1993（平成5）年	
	デ`ザイン研究科	修 士 課 程	2010（平成22）年	
	マンガ研究科	修 士 課 程	2010（平成22）年	

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

設置する学校：京都精華大学

2010（平成22）年5月1日現在（単位：人）

学部・研究科	学科・専攻	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
芸術学部	デザイン学科	—	—	2	2006（平成18）年4月募集停止
	マンガ学科	—	—	2	2006（平成18）年4月募集停止 2011（平成23）年3月学科廃止
	造形学科	112	460	465	
	素材表現学科	64	265	231	
	メディア造形学科	64	265	259	
	計	240	990	959	
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	96	396	422	
	プロダクトデザイン学科	64	265	254	
	建築学科	48	198	167	
	計	208	859	843	
マンガ学部	マンガ学科	96	393	415	
	マンガプロデュース学科	40	166	163	
	アニメーション学科	64	262	275	
	計	200	821	853	
人文学部	人文学科	—	—	1	2003（平成15）年4月募集停止 2011（平成23）年3月学科廃止
	環境社会学科	—	276	168	2009（平成21）年4月募集停止
	社会メディア学科	—	373	297	2009（平成21）年4月募集停止
	文化表現学科	—	333	319	2009（平成21）年4月募集停止
	総合人文学科	450	900	647	
	計	450	1,882	1,432	
学部合計		1,098	4,552	4,087	
芸術研究科	芸術専攻	博士前期課程	20	45	51
		博士後期課程	5	15	16
	計	25	60	67	
デザイン研究科	デザイン専攻	修士課程	10	10	6
	建築専攻		5	5	2
	計	15	15	8	
マンガ研究科	マンガ専攻	修士課程	20	20	20
人文学研究科	人文学専攻	修士課程	10	10	14
大学院計		70	115	109	
総合計		1,138	4,667	4,196	

(5) 就職等の状況

・就職実績

2011 (平成23) 年5月1日現在

学部	就職者数	進学者数	主な内定・進学先
芸術学部	77	41	【広告・デザイン】グラフィック、デザインハウス風 (プリント服地等)、産経アドス (広告) 【写真】六本木スタジオ 【製造・商社】アシックス商事、カミオジャパン、プラチナゲームズ、ニューロン・エイジ (ゲーム)、久利匠 (手描友禅創作)、ひなや (染色・織物製造)、堀木エリコアンドアソシエイツ (オリジナル和紙)、エーキャンビーインターナショナル (アパレル)、黒川ダイドウ (染色加工)、あさば仏教美術工房、クローバー (合鍵材料企画製造) 他 【その他】FIELD 土香 (陶芸品制作他) 京都たつた舞台 (南座舞台)、浜松市文化振興財団他 【教職】京都精華女子中学・高校、大阪府池田市立渋谷中学校、帝塚山学院他 【進学】東京藝術大学大学院、京都市立芸術大学大学院、金沢美術工芸大学大学院、京都精華大学大学院、名古屋芸術大学大学院、京都府陶工高等専門学校他
デザイン学部	99	10	【デザイン】大阪宣伝研究所 (広告)、マッシュ (店舗デザイン)、デザインハウス風 (プリント服地)、ランドマック (プロダクトデザイン)、面白法人カヤック (Web 企画・制作)、エム・シー・アンド・ピー (企画・マーケティング) 不二印刷 (印刷) 【建設】亀山建設 (社寺関連)、S×L カバヤ (住宅)、大林組 (建設)、【製造・商社】京セラ、住江織物 (車両資材)、エレコム (PC 用品)、ファイブフォックス、ポイント (アパレル)、秀和 (キャラクターグッズ等)、グラスホッパー・マニユファクチュア (ゲーム)、東洋ケース (美粧ケース)、富永製作所 (計量器デザイン) 【その他】コープこうべ、ベネッセコーポレーション (教育) 【教職】東京都教員、京都精華女子中学・高等学校、四条畷南中学校 【進学】京都精華大学大学院他
マンガ学部	52	20	【アニメーション】GoHands、プロダクション IG、京都アニメーション、A-1 ピクチャーズ、ピーエーワークス、Wish 【製造】コナミデジタルエンタテインメント、ガンバリオン (ゲーム)、サトー (シールラベルデザイン)、ドリームベッド立川ピン製作所 【出版】芸術生活社 【流通】ヨドバシカメラ 【教育】立志館進学教室、ABC キッキングスタジオ 【その他】吉田神社、マンガ家アシスタント 【教職】京都芸術高等学校、帝塚山学院 【進学】京都精華大学大学院他
人文学部	168	29	【メディア・エンタテインメント】インフォバーン、阪急アドエージェンシー (広告)、ミントプロジェクト (番組制作)、シーベック (アニメーション制作)、トーガシ (ディスプレイ) 【製造・商社】住友林業、エドウィン、ディーゼルジャパン、鼓月 【流通】ヨドバシカメラ、JR 西日本伊勢丹、ビジョンメガネ、山陽マルナカ、パロー 【運輸他】JR 九州、郵便局 【その他】フルキャスト (人材)、ALSOK (警備)、向日市役所、JA ハリマ、農山漁村文化協会、鞍馬寺 【進学】京都精華大学大学院他
計	396	100	

・クリエイターとしての社会的実績

日春展入選、松柏美術館花鳥画展入選、前田青邨記念大賞展入選、春季創画展入選、京展館長奨励賞受賞、京展入選、上野の森美術大賞展入選、創画展入選、前橋アートコンペライブ 2010 伊東順二審査員特別賞、京展版画部門市長賞、全国大学版画展美術館収蔵賞、鯖江市美術展 FBC 賞受賞、全関西美術展入選、国際オンギ公募展入選、GATSBY 学生 CM 大賞キャラクター賞受賞、TURNER AWARD 2010 入選・未来賞受賞、オリジナルファッションコンテスト FIVE 賞受賞、HEP FAIVE ファッションクリエイター新人賞国際コンクール優秀賞受賞、バレエ衣装コンテスト技術賞受賞、KONICA MINOLTA エコ&アートアワード 2011 グランプリ・IDEE 協賛社特別賞受賞、毎日広告デザイン賞優秀賞受賞、kawaii 展審査員特別賞受賞、第 6 回日本童画大賞入賞、日韓パッケージデザインコンテスト入選、東京デザイナーズウィーク学生作品展学校賞・学生賞受賞、Diploma×KYOTO'11 最優秀賞受賞、小学館新人コミック大賞 (少年部門) 大賞受賞、週間少年マガジン月例賞奨励賞、月刊アフタヌーン四季賞佳作受賞、ヤングガンガン月例賞受賞、ヤングマガジン月例賞受賞、アヴァルスマンガ賞受賞、第 9 回インディーズアニメフェスタ大賞・審査員特別賞、イーマ・アカデミックス最優秀賞受賞他

(6) 役員の概要

2011（平成23）年3月31日現在
定員数：理事8人～10人、監事2人～3人

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
理事長	赤坂 博	常 勤	2002年12月～2005年12月専務理事、常務理事（総務担当） 2005年12月～2008年12月専務理事、常務理事（企画担当） 2008年12月理事長就任
学 長	坪内 成晃	常 勤	2009年3月～2010年5月常務理事（学生担当） 2010年5月学長就任
専務理事	上々手 良夫	常 勤	2005年12月～2008年12月常務理事（総務担当） 2008年12月専務理事就任
常務理事	武藏 篤彦	常 勤	2010年5月常務理事（学生担当）就任
常務理事	葉山 勉	常 勤	2002年12月～2005年12月常務理事（教学担当） 2008年5月～2009年3月常務理事（学生担当） 2008年12月常務理事（教学担当）就任
常務理事	石田 涼	常 勤	1999年12月～2005年12月常務理事 2008年12月常務理事（企画担当）就任
理 事	杉本 貞彦	非常勤	2001年5月理事就任
理 事	佐藤 茂雄	非常勤	2002年12月理事就任（京阪電気鉄道株式会社代表取締役 CEO）
理 事	尾池 和夫	非常勤	2008年12月理事就任（財団法人国際高等研究所所長）
理 事	安村 幸駿	非常勤	2008年12月理事就任（株式会社京都銀行特別顧問）
監 事	崎間 昌一郎	非常勤	1996年12月監事就任（京都総合法律事務所弁護士）
監 事	位ノ花 俊明	非常勤	2007年5月監事就任
監 事	堂山 道生	非常勤	2002年12月～2008年12月評議員 2008年12月監事就任（株式会社システムディ代表取締役会 長兼社長）

(7) 評議員の概要

2011（平成23）年3月31日現在
定員数 21人～23人

氏名	主な現職等
赤坂 博	学校法人京都精華大学理事長
坪内 成晃	学校法人京都精華大学学長
武藏 篤彦	学校法人京都精華大学常務理事、京都精華大学副学長（学生担当）
葉山 勉	学校法人京都精華大学常務理事、京都精華大学副学長（教学担当）
上々手 良夫	学校法人京都精華大学専務理事、常務理事（総務担当）兼務
石田 涼	学校法人京都精華大学常務理事（企画担当）、京都精華大学企画室長
堤 邦彦	京都精華大学人文学部長
竹宮 恵子	京都精華大学マンガ学部長
高橋 伸一	京都精華大学人文学部教授、京都精華大学共通教育センター長
福岡 正藏	京都精華大学学長室長
杉浦 章介	有限会社杉浦熔接 代表取締役社長
谷 眞美子	英語教室キッズクラブ 代表、同窓会木野会代表執行幹事
三村 一郎	株式会社三國屋 代表取締役社長
稲垣 秀樹	元天理高等学校 教諭
上村 多恵子	京南倉庫株式会社 取締役社長
河村 純子	河村能舞台
栗山 裕子	建築家、古材バンクの会事務局長
高木 太郎	ニューカラー写真印刷株式会社 代表取締役社長
高瀬 哲	株式会社葵プロモーション 取締役相談役
寺本 義明	京都市立醍醐中学校 校長
村山 忠彦	村山造酢株式会社 代表取締役社長

(8) 教職員の概要

2010（平成 22）年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分	所 属	計
教育職員 (嘱託助手含む)	芸術学部	44
	デザイン学部	38
	マンガ学部	46
	人文学部	45
	共通教育センター	24
	社会連携センター	1
	計	198
事務職員 (理事、嘱託事務職員・契約事務職員含む)	法人部門	2
	大学部門	105
	計	107
合 計		305

平均年齢は教員 47.66 才、職員 40.52 才 [2010（平成 22）年 5 月 1 日現在]

(9) 施設等の状況

(1) 現有施設設備の所在地等の説明

校地面積（2011（平成 23）年 3 月 31 日現在） 239,938.74 m²

（自己所有校地：237,164.89 m²、借用校地：2,773.85 m²）

校舎面積（2011（平成 23）年 3 月 31 日現在） 68,728.31 m²

(2) 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

・国際センターの除却

種類：校舎

面積：1F 69.35 m²、2F 139.81 m²、3F 236.32 m² 合計 445.48 m²

理由：老朽化

取壊年月：2010（平成 22）年 7 月 2 日

2. 事業の概要

(1) 教育に関する事業

①. 大学院デザイン研究科、マンガ研究科の開設

2010年4月より大学院にデザイン研究科修士課程（デザイン専攻／建築専攻）、マンガ研究科修士課程（マンガ専攻）を新たに開設し、既存の芸術研究科、人文学研究科を加えた4研究科体制での運営を開始した。

新たな研究科開設にあわせて既存研究科のカリキュラムを再編し、4研究科を横断して履修することができる共通基盤科目や専門特講科目を開設した。研究科横断型科目を設けることによって、他領域や実社会と積極的に関わるプロジェクトなどを通して、新たな知見を持つことによる各自の専門研究活動の促進を図った。

運営に関しては各研究科委員会の開催に加えて、共通科目等の運営や研究指導等に関する連携を図るために、研究科長連携会議を設け教育研究活動の充実を図った。

また国内唯一のマンガ研究科においては、海外からの入学者として韓国・中国・ドイツ・ラトヴィアの計5ヶ国から計9名の留学生が入学した。

②. 大学院マンガ研究科博士課程の設置準備

国内外から注目を集める本学のマンガ教育研究活動において、世界トップレベルの教育研究体制を確立するために、修士課程の完成年度である2012年度に向け大学院マンガ研究科博士課程の設置準備を行った。教育課程や研究指導体制、運営体制等の設置・運営に関する事項について検討を行った。

③. 既存学部への再編準備

「表現の大学」としての本学のさらなる特徴を打ち出すために、既存学部における教育課程の見直しの検討を進めた。デザイン学部およびマンガ学部において、学長の諮問にもとづき再編検討委員会を発足し、学科再編および新コース設置を視野に入れた再編計画の検討を開始した。

④. 共通教育の改革

「教学方針2013」の重点課題である共通教育の改革について、検討のための共通教育検討委員会を発足し「全学共通教育の枠組みの策定」、「教養教育としての演習科目の設置」「2013年度実施に向けた計画の立案」といった共通教育の骨子を固めた。

2010年度においては計画実行のために、共通教育準備委員会とキャリアデザインセンター設立準備委員会を発足し、2011年度開講に向け、共通教育準備委員会では芸術・デザイン・マンガ学部における初年度教育科目「表現ナビ」について、キャリアデザインセンター設立準備委員会では大学設置基準改正によって義務化されたキャリア教育に対応すべく「キャリア科目」に関して検討・準備を行った。

⑤. 教育の国際化の推進

中期方針のビジョンに掲げている教育の国際化推進を図るために、ロンドン芸術大学（キャンバウエル・カレッジ・オブ・アーツ、セントラル・セント・マーチンズ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン、チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン、ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッション、ウィンブルドン・カレッジ・オブ・アートの 6 大学から成る）と共同の教育研究・文化的交流に関する相互協力協定を締結した。

またこの協定に伴い、セントラル・セント・マーチンズ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインとキャンバウエル・カレッジ・オブ・アーツ、チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ・アンド・デザイン、ウィンブルドン・カレッジ・オブ・アートの 3 大学の連合体である CCW と新たに交換留学提携を結び、交換留学提携校の充実を行った。

⑥. 高大連携の推進

新たに信濃むつみ高等学校と教学に関する提携を推進し全 8 回の高大合同ゼミを開催した。また京都精華女子高等学校他、協力校との教学連携として、芸術系向けのワークショップや、工房体験ワークショップを実施し関係強化を図った。

⑦. 成績優秀者に対する奨学金制度（学業奨励の推進）

学業奨励推進として入学試験において優秀な成績で合格した学生を対象に入学年度の後期学費を免除する入学時給付奨学金を支給した。

芸術、デザイン、マンガ学部の公募制入試推薦入試において、対象者 13 名に給付、人文学部では一般入試・センター試験利用入試において対象者 10 名に給付を行った。学業奨励制度は入学時のみならず、2 年次以降においても成績優秀者に対しては年間授業料の半額を給付する「学修奨励奨学金」の給付を行った。

(2) 研究に関する事業

①. 国際マンガ研究センターの活動

2006 年度採択の文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業」の一環であるオープン・リサーチ・センター整備事業の最終年度として 4 つのプロジェクトを総括的な視野と次年度以降の継続性のバランスを考慮し充実を図った。主な活動としては文化庁事業へのデータベース提供や常設展示の公開、国際マンガ研究センターウェブサイトの公開、『国際マンガ研究』1 号の発刊を実施した。

また今までの実績を元に、マンガの文化的・産業的活用モデルを提示するコンサルタントや、展示・講演会・ワークショップ等の企画立案、マンガを用いた教育プログラムの相談や研究調査といったシンクタンク事業を開始した。

②. 全学研究センターの活動

ア. 共同研究の推進

2010 年度より全学研究センター企画による企画研究と教職員からの公募による公募研究の 2 つの共同研究支援制度の整備を行った。企画研究プロジェクトは「大学にお

けるマンガ教育手法の体系化に関する研究（研究代表者：小泉真理子）」、公募研究プロジェクトは「環境リスクコミュニケーションにおける機能マンガの導入とその社会的波及効果の研究（研究代表者：竹宮恵子）」、「フランスにおける日本製文化コンテンツ受容の分析に向けた基礎研究（研究代表者：安田昌弘）」の計3件を採択、開始した。

イ. 外部研究資金獲得の推進

文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金等の学外研究資金を獲得するための情報提供と申請支援を行った。

ウ. 紀要の発行

教職員の研究成果発表である京都精華大学紀要の37号、38号を発行し、国内の各大学へと配付を行った。また本学ウェブサイトにて電子データの公開を行った。

エ. 出版活動の推進

研究成果公開を促進するため、教職員を対象とした出版助成金制度の導入し、2010年度においては11件の申請に対して審査の結果3件の助成をなした。また併せて出版に関するコンサルティング支援を開始した。

(3) 志願者確保に関する事業

①. 情報発信強化

各学部・学科・コースの教学内容をより明確に伝えるためアピールポイントの整理を行い、授業内容の紹介や社会連携活動等に関するウェブサイト情報の充実によって情報発信力を高めた。また第一線で活躍する卒業生を紹介するウェブサイト「セイカ未来図鑑」の公開や、「人文学部卒業生紹介冊子」、「芸術学部卒業生 WORKS」等の冊子制作および配布を行い、本学卒業後のイメージを知る機会の増加を図った。

その他にもオープンキャンパスや卒業制作展、大学グッズ、広告等の大学広報物について、本学学生にデザイン制作を依頼することで、教育内容に根ざした学生のクリエイティブ活動の社会的認知の向上を図った。

②. 学生募集活動強化

学外説明会に入試広報部以外の職員が対応することで、学生生活やキャリア支援等、大学をより多角的に伝えられる活動体制にて実施した。その他にも教員による高校でのワークショップの実施強化を行った。

③. 下宿費補助奨学金制度の整備

地方からの志願者に対し、出願時（一般入試A日程）に申込みをし合格した者に対して、年額12万円（月額1万円×12ヶ月）を給付する「下宿費補助奨学金制度」を整備した。

(4) 財務等に関する事業

①. 教育研究事業等に関する助成金・補助金の獲得

2009年度に採択された文部科学省の大学教育・学生支援推進事業「学生支援推進プログラム」に続き、2010年度は文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に本学の「職業的実践力を有する表現者育成プログラム」の取組みが採択された。

この取り組みは学生が学部専門教育で培われた表現力を社会展開し、職業的に自立するための方途として活用できる人材育成によって就業力向上を目的とするものである。

2010年度は事業の基盤整備として、クリエイティブ領域での企画・プロデュース・マネジメント・経営・法律等を学ぶ正規科目群「デザイン・ビジネス・スクール」の充実化を図り、企業や団体等との産官学連携事業を実践的に取り組み、成果発表等を行う拠点として学外サテライトスペース「kara・S（カラス）」の整備を行った。

②. 基本金組入計画の実施

学内施設老朽化を見据え、明窓館建替工事業費としての第2号基本金組入計画に基づき、2010年度においてはその初年度として98,599,000円の自己資金積み立てを行った。

③. 収益事業計画の策定と実施

京都国際マンガミュージアムの収益事業担当部署である事業推進室では、マンガを中心とした各種受託事業において56件の受託事業を行い、受託売上金額前年比160%となり過去最高の売上を計上した。

(5) キャリア支援に関する事業

①. キャリアデザインセンター設立準備

就業力育成に関する大学設置基準改正に対応するため、学生の多様なキャリア形成支援を包括的に支援するためのキャリア教育ハブ組織「キャリアデザインセンター」を2011年度の設置に向け準備を行った。

具体的にはキャリアデザインセンター設置準備委員会を立上げ、学部、教学支援、キャリア支援、社会連携などを担当する部署連携体制の構築とキャリア科目群の開設に向けての検討準備を行った。

②. 卒業生のための仕事受注サイトの構築

自立したクリエイターのキャリア支援の一環として、本学出身クリエイターと、デザインや造形物制作等のクリエイティブな領域における仕事依頼先を探す企業等をつなぐことを目的とした仕事受注サイト「SEIKA CREATORS BOARD」（セイカクリエイターズボード）の構築を行った。

本サイト構築については、本学の産学連携プロジェクトの一環として在学生在が制作に関わる実践的な取り組みとして行った。

(6) 地域と社会における連携と貢献に関する事業

①. 社会連携教育プログラムの充実

本学の教育理念である「体験主義」、「国際主義」を具現化するため、世界レベルで活躍するクリエイターを迎えた「クリエイティブ・ラボ・プロジェクト」を新たに開始した。

イタリアの建築家・デザイナーのセルジオ・カラトローニ氏による集中講義・ワークショップ。ジェームズ・パウダリー氏（メディアアーティスト・アメリカ）によるプログラミングを応用したワークショップ「私から社会へ Home X with James Powderly」。「パッ

チギ！」等で知られる、映画プロデューサーの李鳳宇氏とのプロジェクトでは、東京大学と早稲田大学と本学学生たちとの共同セミナーを行い、その中から生まれた映画企画を釜山国際映画祭のマーケットブースにて発表を行った。

2010年度においては、上記3名の国際的クリエイターを招聘し、計4つのプロジェクトを開催した。

②. 社会連携事業の推進

就業力育成支援に関する大学設置基準改正にあるように、学生への社会的・職業的自立に関する指導に関しては大学のみならず、産業界や各種団体といった社会との連携を推進が必要となっている。

社会連携事業の窓口である社会連携センターでは、文化・芸術教育研究活動と社会活動を結び、学生が実社会から与えられる課題に取り組むことで、社会評価の体感といった教育研究活動の向上と、創造的資源による社会貢献を本学における連携事業の目的を再確認し、近年の企業・大学・自治体・各種団体等からの産官学連携依頼が増加傾向であることを踏まえた受入体制の整備を行った。

具体的には、依頼案件を正規カリキュラム内にて取り組む「カリキュラム導入型」とアイデア公募や領域をまたいだ複数の担当指導教員によるプロジェクト等を授業時間外で取り組む「プロジェクト型」の2つの方式による「クリエイティブ・コラボレーション」という名称にて運営体制整備を行い、計29件の取り組みを実施した。

③. 他大学との連携事業の推進

ア. 京都大学との連携事業

2009年度の京都大学宇宙総合学研究ユニットとの「宇宙とアート」プロジェクトに引き続き、新たに京都大学大学院医学研究科との共同プロジェクトを開始した。

この取り組みは京都大学医学研究科人間健康科学リハビリテーション科学コースが高齢者の転倒予防のために研究・開発した、脳機能と身体機能の二つを同時に鍛えるデュアルタスク・エクササイズを広く社会に広めることを目的とし、本学学生はクリエイティブ領域を担当した。

両大学の学生と教員にて研究チーム名称やロゴタイプのデザイン、イメージキャラクターの制作、研究内容を紹介するパンフレット制作、イメージアニメーションの制作に組み、東京国際フォーラムで開催された市民公開イベント「運動器の10年」にてブース展示等の成果発表を行った。

イ. 北仲スクールの開校

2009年度に文部科学省「大学教育のための戦略的大学連携推進プログラム」に採択された、本学を含めた7大学の共同事業「横浜文化創造都市スクールを核とした都市デザイン／都市文化の担い手事業」において、サテライトスクールとしての試行が進められていた北仲スクールを2010年4月に横浜にて正式開校した。

本学教員が担当する都市文化創成基礎科目群の夏期集中科目「アーバンポップ論C」にて本学学生30名が横浜に滞在し、受講しながら他大学生と交流を図った。

関連イベントとして、京都国際マンガミュージアムで行った「マンガミーツルーヴ展」の横浜巡回展を Bank ART Studio NYK で開催、その他マンガと都市文化に関するシンポジウムやワークショップ等を実施した。

④. 自治体等との連携事業について

ア. 山村 College 事業

2009 年度に引き続き、農林水産省による「広域連携共生・対流等推進交付金」の受給を受け、本学学生および卒業生等を対象に、長野県栄村および周辺地域をフィールドとし、農山村に暮らす方々を講師として招き、自然、歴史、伝統、暮らしの知恵などを教材にした体験プログラムを開発・実施した。

イ. 田舎で働き隊事業

農林水産省からの補助事業「農村活性化人材育成派遣支援モデル事業」の採択を受けた「田舎で働き隊事業」として、長野県栄村に計 8 名の研修生を派遣しグリーンツーリズム開発事業および地域特産品拡販事業を実施した。

ウ. 上賀茂神社アートプロジェクト

芸術活動における地域活性化の取組みとして上賀茂神社と上賀茂自治連合会との共同プロジェクトにより「上賀茂神社アートプロジェクト」を開催した。

この取組みは世界遺産である上賀茂神社の境内や、周辺を会場にして計 110 名の参加学生による立体作品や絵画、映像作品の展示を行ない、会期中には親子を対象としたワークショップや会場内スタンプラリー等のイベントを同時開催し、地域社会との交流を図った。

⑤. 公開講座、講演会について

ア. 日仏 SF マンガ交流事業

フランス・コミックス=バンド・デシネ (BD) 界の巨匠、ジャン=クロード・メジエール氏とピエール・クリスタン氏の 2 名を招聘し、本学と京都国際マンガミュージアムにて日本のトップクリエイターを交えたトークショーと展覧会「メジエール×クリスタンの世界 フランス SF マンガの想像力」を開催した。

イ. アセンブリーアワー講演会、公開講座 GARDEN の開催

開学以来継続しているアセンブリーアワー講演会においては、横山裕一氏（漫画家・芸術家）や町田康氏（小説家・パンク歌手）他、各界の第一線で活躍する講師を迎え、全 9 回開催し延べ約 1,650 名の参加があった。

また公開講座 GARDEN では身体表現や現代思想、伝統工芸や DTP デザインといったものづくり、子供を対象とした講座等、全 38 講座を開講し延べ 629 名が受講した。

ウ. 岡本清一記念講座の開催

初代学長岡本清一の自由の思想を考える岡本清一記念講座において、佐藤優氏（作家・元外交官）を招聘し、自由という切り口から現在の日本と世界について考察する講演会「自由の現在」を開催し約 350 名の参加があった。

⑥. 学外施設の活用について

京都国際マンガミュージアムでは年間入場者が 30 万 5096 人（前年比 102%）となり、開館からの累計数が 110 万人を超えた。

特別展として「やなせたかし展」を含む 3 本の展覧会、企画展ではフランスのルーヴル美術館との共催展「マンガ・ミーツ・ルーヴル ～美術館に迷い込んだ 5 人の作家たち」や文化庁による「文化庁メディア芸術祭京都展」といった 16 本の展覧会を開催した。

その他にも「マンガ学部卒業・修了制作展（来場者約 9,500 名）」や、講演会・シンポジウム・その他ワークショップ等多数のイベントを開催した。

(7) 組織および運営に関する事業

①. プロジェクト・チーム制度の導入

社会変化に伴い大学における業務内容は年々多様化してきており、組織図に則った形で単一部署による業務遂行を行うことが困難となってきた。

そのため業務課題を組織にあわせるのではなく、組織を業務課題にあわせて運用できる柔軟性のある部署横断型組織をつくりだすために「プロジェクト・チーム制度」の導入を開始した。

2010 年度の取組みとしては「本館レイアウト再編プロジェクトチーム」を立上げ、事務局部署間の協働を推進し、大学運営に携わる学生および教職員の交流促進を目的とした本館レイアウトの再編計画の立案・実施を行った。

②. 職員研修制度の導入

入職 1～3 年目の若手職員を対象にした研修制度を導入した。本学の建学理念、ミッション、ビジョン、中期方針等とあわせて、大学運営の基本となる学校教育法、大学設置基準、大学会計等を学ぶ職員研修を実施。その他リサーチプログラムや科目履修プログラム等といった実践的なプログラムをあわせて行うことにより、大学職員としての意識や基礎知識の向上を図った。

各プログラム終了後には受講者アンケート等により、今後継続的に内容充実を図るための評価と検証を行った。

(8) 施設および設備に関する事業

①. 本館レイアウトの再編

学生と教職員の交流促進、事務局の業務連携推進を図るため、本館レイアウト再編計画を立案・実施を行った。1F フロアには学生・教職員といった大学関係者の交流を深めるラウンジスペースを設置、2F フロアは学生課、教務課、就職課、国際課等の学生の利用が多い部署をワンフロアにまとめることで、学生がより利用しやすいレイアウト再編を行った。

②. 学内外施設・設備の整備

学内設備に関しては、丹後学舎屋根吹替改修、体育館メインアリーナの床面改修、高架受水槽の取替え、悠々館 1F・遠友館のガス吸収式空調設備改修、悠々館 1F テラス屋根の部分改修、一星館電話交換機（PBX）の取替改修等を行った。その他にも本館・清風館周辺の雨水対策工事とスクールバスのルート変更による坂下縁石部分の改修、国際交流セン

ターの老朽化に伴う解体および跡地緑化を行った。

また e-box2F を本学の海外協定校等から来学する交換留学生や教員等が短期間宿泊することができる国際交流施設として整備を行った。

3. 財務の概要

2010 年度の決算の概要は、次の通りです。

*金額は、原則として百万円単位で記載しています。

*増減額及び増減比は、前年度との比較を示しています。

(1) 資金収支について

前年度から繰り越した支払資金（現金・預金）は、4,579,033,461 円でした。当年度の支払資金収入総額は、学生納付金、補助金などの収入の他、次年度学費の前受金、未収入金・貸付金の回収などを含んで、7,826,433,547 円でした。その結果、収入の部の合計は、12,405,467,008 円となりました。

一方、当年度の支払資金支出総額は、人件費・経費、借入金利息・返済支出、施設・設備関係支出、有価証券の購入支出など 7,842,261,110 円でした。

以上の結果、次年度繰越支払資金（期末現金・預金有高）は、4,563,205,898 円となり、支払資金は、15,827,563 円減少したことになります。

(2) 消費収支について

帰属収入合計は、前年度から 66 百万円減少し、前年度比 99.1%の 7,073 百万円でした。

増加した収入は、次の通りです。

寄付金は、現物寄付が増えたことなどにより、7 百万円増加して、40 百万円（120.4%）となりました。

補助金は、8 百万円増加し、671 百万円（101.3%）となりました。このうち、私立大学等経常費補助金は、24 百万円増加し、588 百万円（104.3%）でした。内訳は、一般補助が 441 百万円（119.8%）、特別補助が 147 百万円（75.1%）です。私立大学等経常費補助金の受給額は、全国の補助金受給 549 大学（短期大学を除く）の中で、110 番目でした。その他の国庫補助金については、昨年度受給額より 16 百万円の減額（83.9%）となりました。

資産運用収入は、1 百万円増の 86 百万円（101.5%）でした。これは、有価証券利息・配当金の増加によるものです。

事業収入は、全体で 46 百万円増加し、249 百万円（122.9%）となりました。主な内訳としては、京都国際マンガミュージアムの入場料収入や売店販売収入、受託事業収入などが挙げられます。

雑収入は、37 百万円増加し、186 百万円（124.7%）となりました。そのほとんどが私立大学退職金財団からの退職資金交付金の増加によるものです。

一方、減少したものは、次の通りです。

学生納付金は、学生数の減少に伴い、135 百万円減の 5,776 百万円（97.7%）となりました。

入学検定料収入がそのほとんどを占める**手数料収入**は、9百万円の減少で、55百万円（85.3%）となりました。

資産売却差額は、21百万円減少し、有価証券の売却差益10百万円（33.3%）を計上しました。

消費支出は、前年度から317百万円増加し、前年度比104.9%、6,838百万円となりました。

人件費は、311百万円増加し、3,782百万円（109.0%）となりました。これは、退職給与引当金について、文部科学省から「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について（通知）」が発出されたことに伴い、従来、期末要支給額の80%を基にして計上していたものを、当年度から100%を基にして計上する方法に変更したことなどによるものです。

教育研究経費は、20百万円増の2,206百万円（100.9%）となりました。

管理経費は、20百万円減の735百万円（97.3%）となりました。

借入金利息は、7百万円減少し、72百万円（91.2%）となりました。

資産処分差額については、建物処分差額や図書の処分差額が主なもので、昨年度より12百万円増加し、33百万円（158.0%）となりました。

未収入金などの**徴収不能額**（学費滞納者の除籍・退学などによる）は、1百万円増加して11百万円（114.7%）となりました。

基本金組入額は、3百万円減の254百万円（98.7%）となりました。

当年度は、前年度に引き続いて多額を要する資産の取得がなかった上、過年度に取得済みの機器備品などの除却が増えたため、通常**第1号基本金組入額**が155百万円（61.2%）となりました。施設・設備関係支出の中で主だったものとしては、コンピュータ教室設備費があります。また、当年度より**第2号基本金組入**を開始しました。当年度の組入額は、99百万円です。なお、**第4号基本金組入**は、ありませんでした。

以上の結果、**消費収入の部合計額**は、前年度に比べ62百万円減少し、6,819百万円（99.1%）でした。また、単年度の**消費収支**は、19百万円の支出超過となりました。

(3) 賃借対照表について

固定資産は、389百万円増加し、24,069百万円（101.6%）となりました。有形固定資産は、建物の減価償却などにより600百万円減少しました。その他の固定資産は、有価証券の買い増しなどにより989百万円増加しました。**流動資産**は、242百万円減少し、4,817百万円（95.2%）となりました。これらの結果、**総資産額**は、146百万円増加し、28,886百万円（100.5%）となりました。**総負債**は、89百万円減少し、5,850百万円（98.5%）となりました。**固定負債**は、退職給与引当金の増加などにより75百万円増加し、3,825百万円です。**流動負債**は、164百万円の減少で、2,024百万円（92.5%）となりました。**自己資金**は、235百万円（帰属収支差額に同じ）増加し、23,037百万円（101.0%）となりました。

自己資金比率は、0.4%増加し、79.7%となりました。**総負債率**は、20.3%ということになります。